

「法正尻遺跡展1」関連文化財セミナー

ほうしょうじり

法正尻遺跡の集落構成



日 時：令和3年2月27日（土）13：00～15：00

場 所：福島県文化財センター白河館（まほろん） 講堂

日 程：13：00 第1部 法正尻遺跡の概要 松本 茂

13：40 第2部 縄文中期前半の法正尻集落 本間 宏

14：10 第3部 討 論

15：00 閉会

講師プロフィール

松 本 茂（まつもと しげる） 公益財団法人福島県文化振興財団 遺跡調査部 文化財主事

【経 歴】 1953 年、東京都大田区生まれ。都立大森高校を卒業後、(株)東京ガスに就職。その後、考古学への道を諦めきれず、1977 年に日本大学文理学部史学科に進学。卒業後、1981 年 4 月から財団法人福島県文化センター（現：公益財団法人福島県文化振興財団）事業第二部遺跡調査課に勤務。石川町七郎内 C 遺跡、飯舘村岩下 D 遺跡、飯舘村羽白 C 遺跡、磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡、郡山市木村館跡、本宮市高木遺跡など、数多くの埋蔵文化財を調査。2000 年 4 月から 1 年間、福島県教育庁文化課との併任により福島県文化財センター白河館の開館準備業務に従事。2001 年 4 月から 3 年間白河館研修課の初代専門学芸員として市町村文化財保護行政の実務指導に当たった。2004 年度以降は福島県文化振興財団遺跡調査部調査課において発掘調査を牽引し、副主幹として文化財センター整備事業を推進。定年後も文化財主事として発掘調査の最前線に立ち、後進の指導に当たっている。専門は日本考古学。

【著 作】 ・『東北横断自動車道遺跡調査報告 11 法正尻遺跡』福島県教育委員会他 1991 年
・「五領ヶ台式から阿玉台式土器へ」『論集しのぶ考古』1996 年
・「木村館の破却」『城破りの考古学』2001 年 吉川弘文館
・「法正尻遺跡 65 号住居跡出土の縄文土器」『福島県文化財センター白河館研究紀要 2001』2002 年
・「粘板岩を割る」『怒涛の考古学』2005 年
・「貯蔵穴から集落をみると一法正尻遺跡の調査から」『福島県文化財センター白河館研究紀要 2018』2019 年 ほか多数

本 間 宏（ほんま ひろし） 公益財団法人福島県文化振興財団 福島県文化財センター白河館 参事兼学芸課長

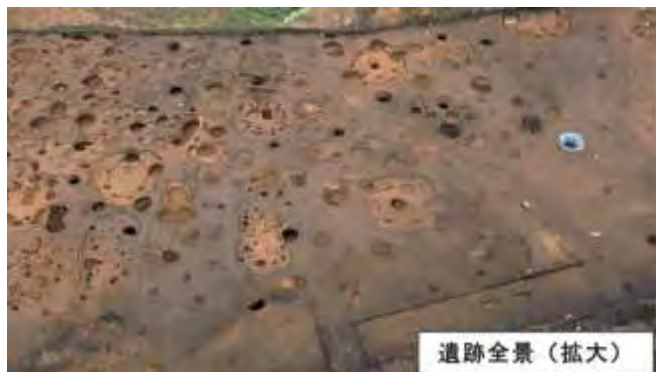
【経 歴】 1962 年、秋田県秋田市生まれ。1984 年から財団法人福島県文化センター（現：公益財団法人福島県文化振興財団）に勤務。遺跡調査課、県文化会館、県歴史資料館を経て現職。

【著 作】 ・「綱取・南境式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション 2008 年
・「東日本大震災と歴史資料保護活動」『被災地の博物館に聞く』吉川弘文館 2012 年
・「計画的避難区域における文化遺産の保護」『ふくしま再生と歴史・文化遺産』山川出版社 2013 年
・『直江兼続と関ヶ原』公益財団法人福島県文化振興財団編 戎光祥出版 2014 年
・「原子力災害と博物館活動」『歴史を未来につなぐ』東大出版会 2020 年
・「上杉景勝の戦い」『関ヶ原大乱、本当の勝者』朝日新書 2021 年 など

第1部 法正尻遺跡の概要

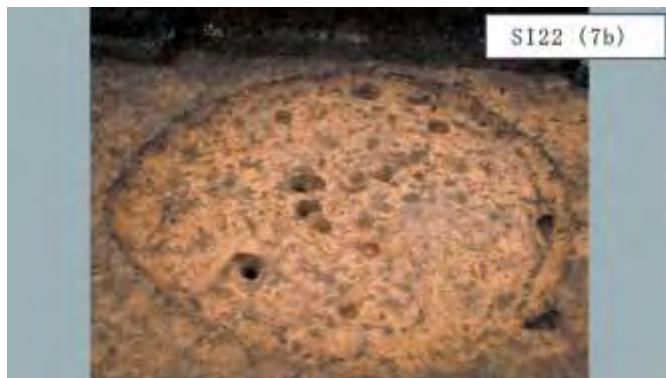
松本 茂

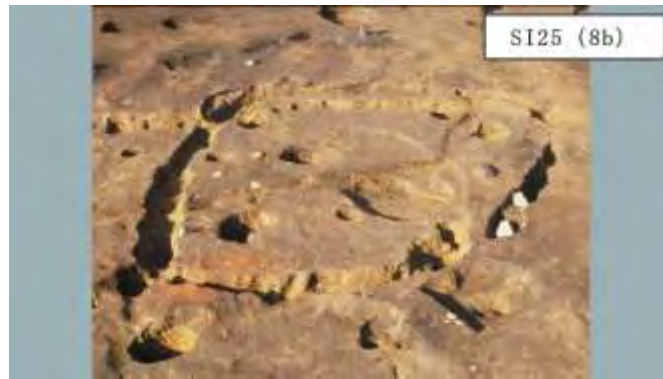
1 遺跡の地形と調査概要



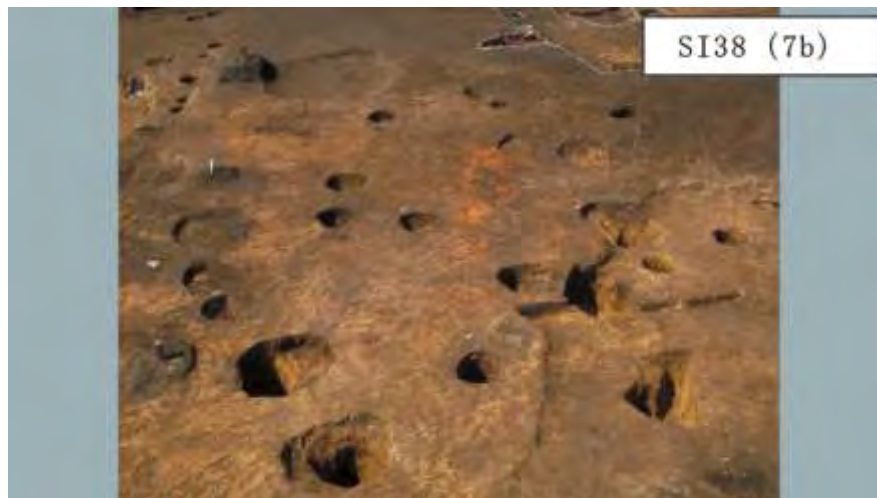
2 竪穴住居跡の特徴と変遷





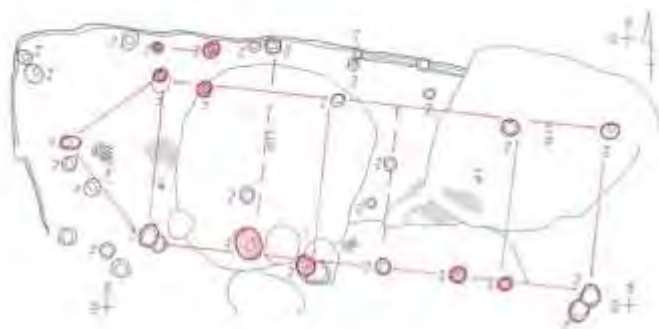


3 住居の炉とその変遷





4 住居の間取りと出入口



SI29・9・43
とおまけ

5 貯蔵穴について

貯蔵穴 (7b)



貯蔵穴 (8a)



貯蔵穴 (8b)



第2部 縄文中期前半の法正尻集落

本間 宏

1 法正尻遺跡の年代幅

縄文時代年表

	Cal.BP	年数	土器の特徴または型式	福島県の代表的遺跡	
草創期	16500 11500	5000年間	無文		
			隆起模文	高山（白河市）	
			豆粒文	仙台南内（福島市）	
			爪型文	南諏訪原（福島市）	
			円孔文		
			多縄文		
早期	11500 7000	4500年間	薄手無文・櫛条文	松ヶ平A（飯館村）	
			平板式・竹之内式	一里塚A（白河市）	
			大平・三戸式	竹之内（いわき市）	
			田戸下層式	大平（大熊町）	
			明神雲田式	前原（天栄村）	
			常世1式	西ノ内D（福島市）	
			野島・櫛木式	下ノ平B（福島市）	
			常世2式	常世原田（喜多方市）	
			野島・櫛木式	田子平A（浪江町）	
			鶴ガ島台式	泉川（白河市）	
			茅山下層・素山IIa式	葉師堂（石川町）	
			常世2式・北前式・梨木畑式	中ノ沢A（郡山市）	
			日向前B式・大塚G式	大槻八幡（郡山市）	
				西田（小野町）	

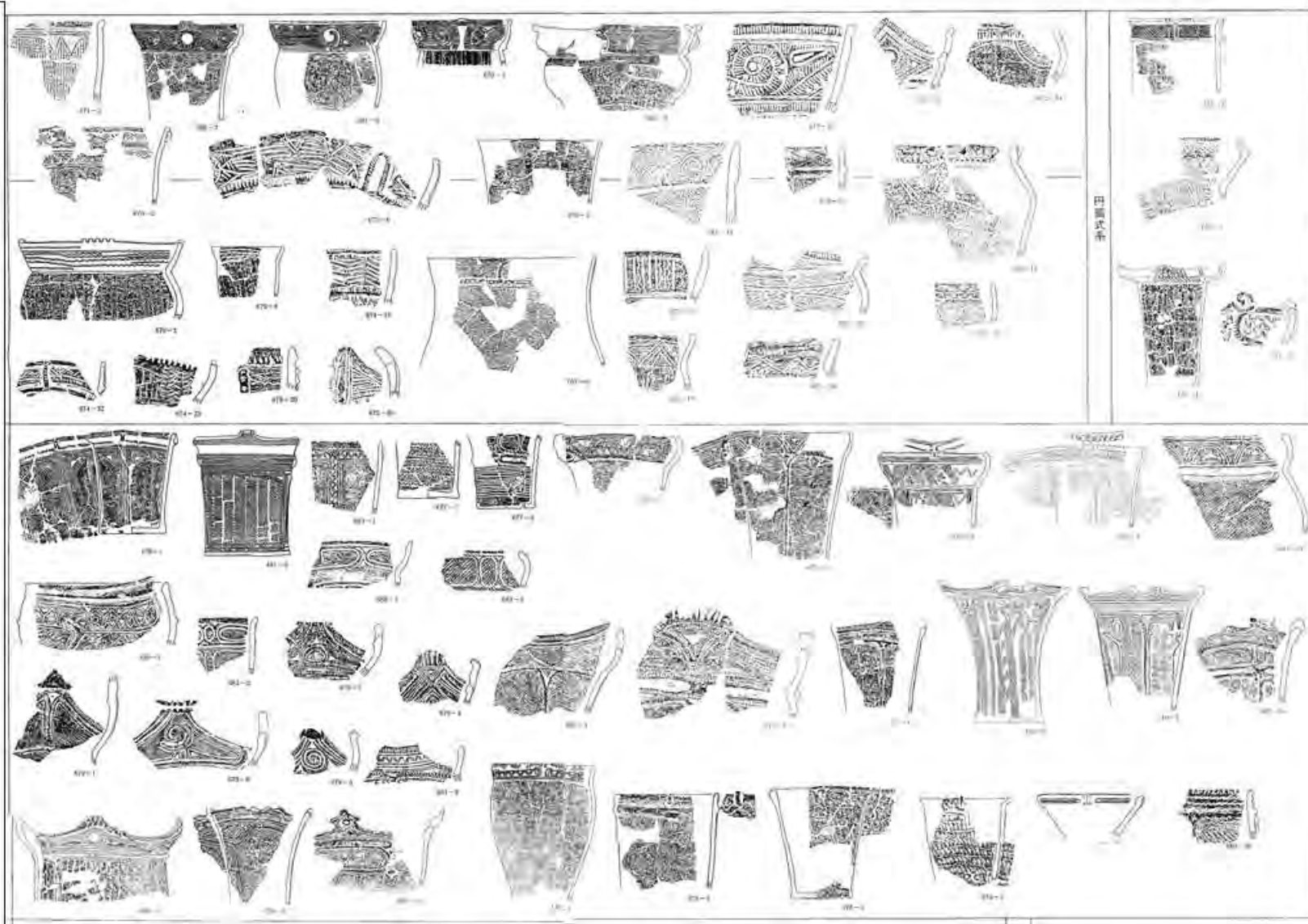
	Cal.BP	年数	土器の特徴または型式	福島県の代表的遺跡	
前期	7000 5470	約3000年間	上田皿式	上田郷A（広野町）	
			宮田皿群	獅子内（福島市）	
			大木1式	宮田皿屋（南相馬市）	
			大木2a式	笹山群A（会津若松市）	
			大木2b式	宇輪や（福島市）	
			大木3式	下ノ平B（福島市）	
中期	5470 4420	1050年間	大木4式	鶯沢（会津美里町）	
			大木5式	十五地（会津美里町）	
			大木6式	下谷ヶ地平A（会津美里町）	
			大木7a式	鶴島（会津美里町）	
			大木7b式	菅宮西（会津美里町）	
			大木8a式		
			大木8b式	大平・後間（福島市）	
			大木9a式	互崎A（福島市）	
			大木9b式	法正尻（法高度・野村町）	
			大木9c式	伊賀中（福島市）	
			大木10a式	本能原（会津若松市）	
			大木10b式	石生面（柳津町）	
				宇手跡A（福島市）	
				前田（川俣町）	

	Cal.BP	年数	土器の特徴または型式	福島県の代表的遺跡	
後期	4420 3320	1100年間	越田和2群	越田和（三春町）	
			網取1式	高木・北ノ脇（本宮市）	
			網取II式	馬場中郷（郡山市）	
			大湯式・堀之内2式	紫原A（三春町）	
			阿ツ石式・宝ヶ峰1式	荒小路（郡山市）	
			宝ヶ峰2式	三枝塚（須賀川市）	
			宝ヶ峰3式	明B（郡山市）	
			新地1式	向原（国見町）	
			新地2式	宮内B（飯館村）	
			新地3式	上岡（福島市）	
			新地4式	又長衛田A（須賀川市）	
				小瀬（福島市）	
				田子平A（浪江町）	
				稲荷塚（飯館村）	
晩期	3320 2350	870年間	大洞B式	斜白C（飯館村）	
			大洞C式	一斗内（須賀川市）	
			大洞D式	岩下B（飯館村）	
			大洞E式	宮郷（福島市）	
			大洞F式	南諏訪原（福島市）	
			大洞G式	荒原群（三島町）	



法正尻遺跡から出土した縄文中期前半の土器群（1）

『東北横断自動車道遺跡調査報告11』
 （福島県教育委員会ほか一九九一）付図4に加筆



大木7a式期

法正尻遺跡から出土した縄文中期前半の土器群（2）

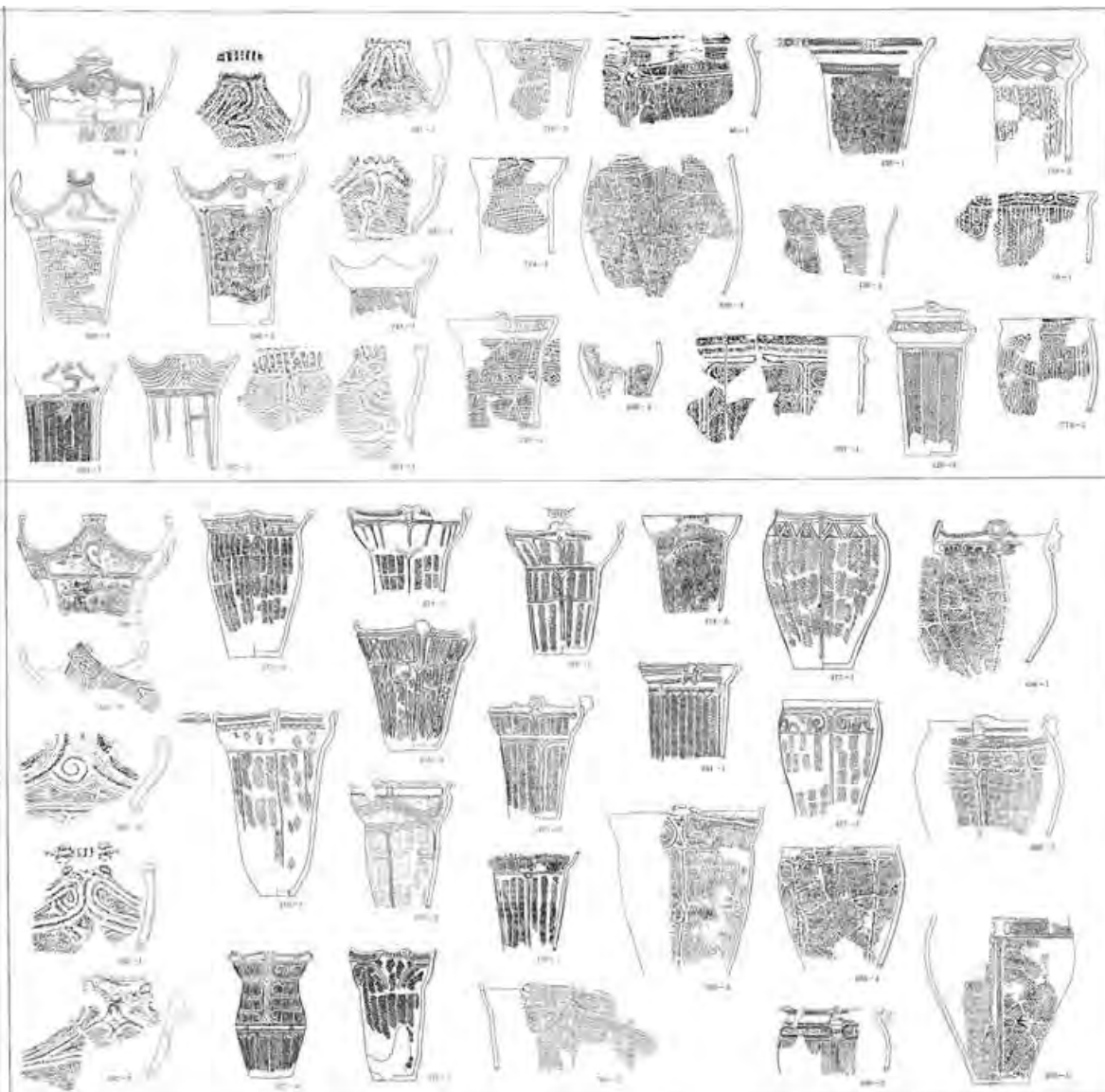
『東北横断自動車道遺跡調査報告11』

（福島県教育委員会ほか一九九一）付図4に加筆



阿玉台印式

阿玉台印式



大木7b式期

法正尻遺跡から出土した縄文中期前半の土器群（3）

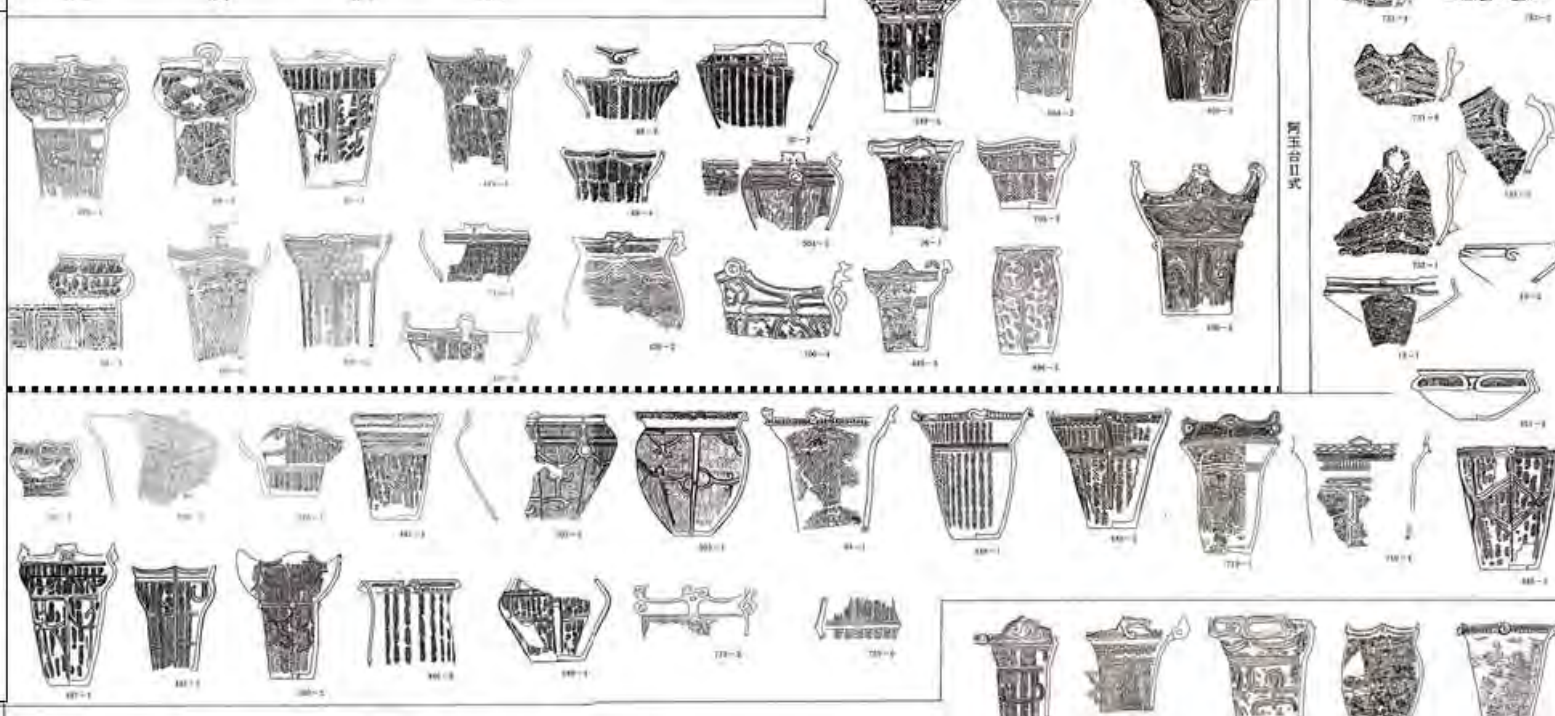
『東北横断自動車道遺跡調査報告11』

（福島県教育委員会ほか一九九一）付図5に加筆

大木7b式期



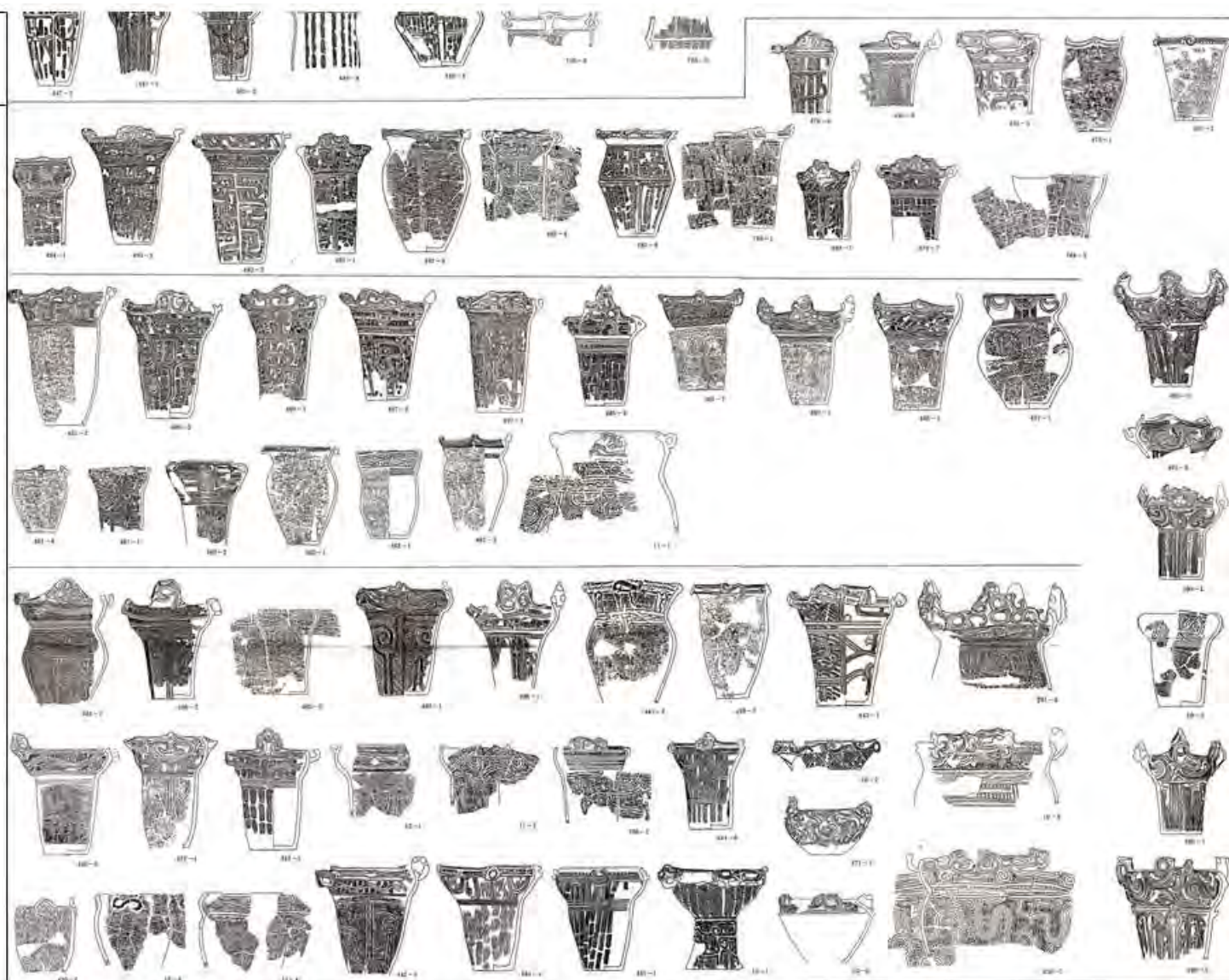
大木7b—8a式期



法正尻遺跡から出土した縄文中期前半の土器群（4）

『東北横断自動車道遺跡調査報告11』
（福島県教育委員会ほか一九九一）付図5に加筆

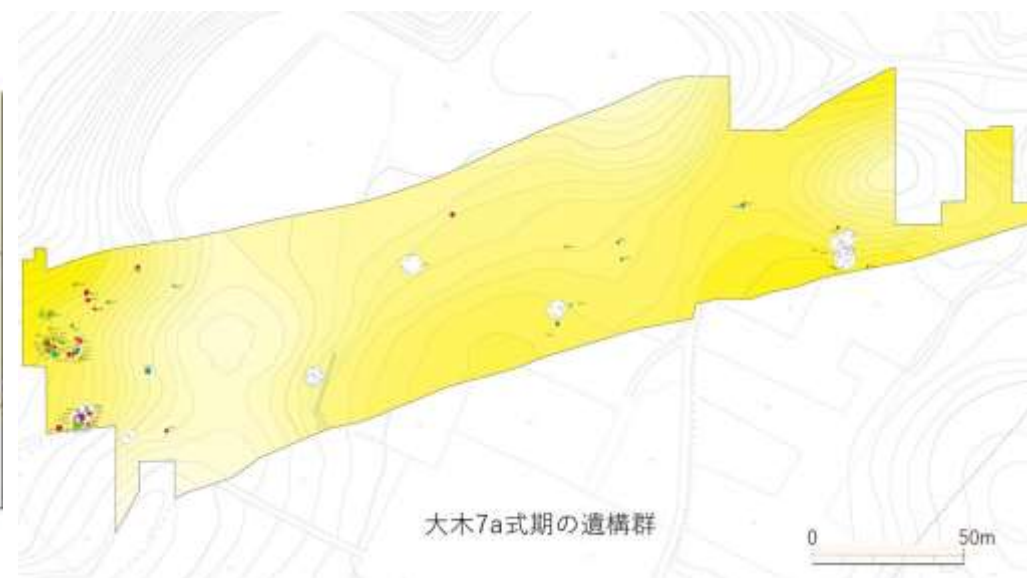
大木8a式期



2 各時期における遺構群の立地

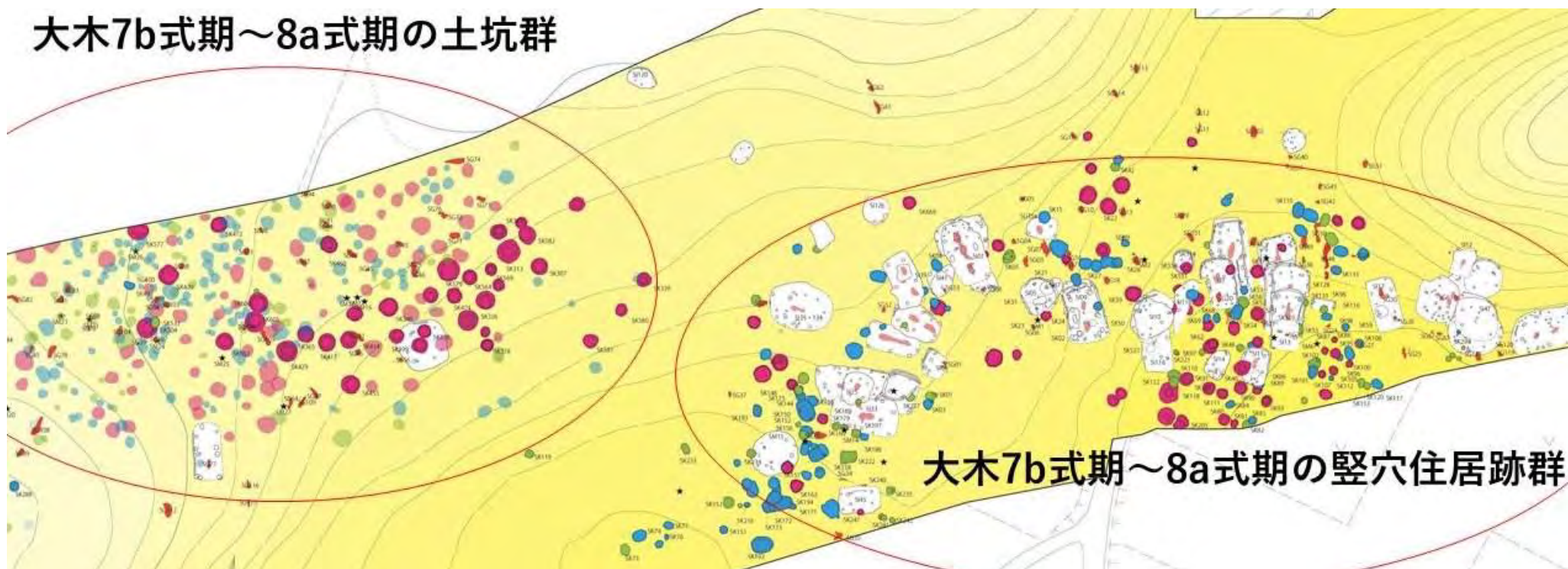


『東北横断自動車道遺跡調査報告11』付図1（福島県教育委員会ほか1991）に加筆

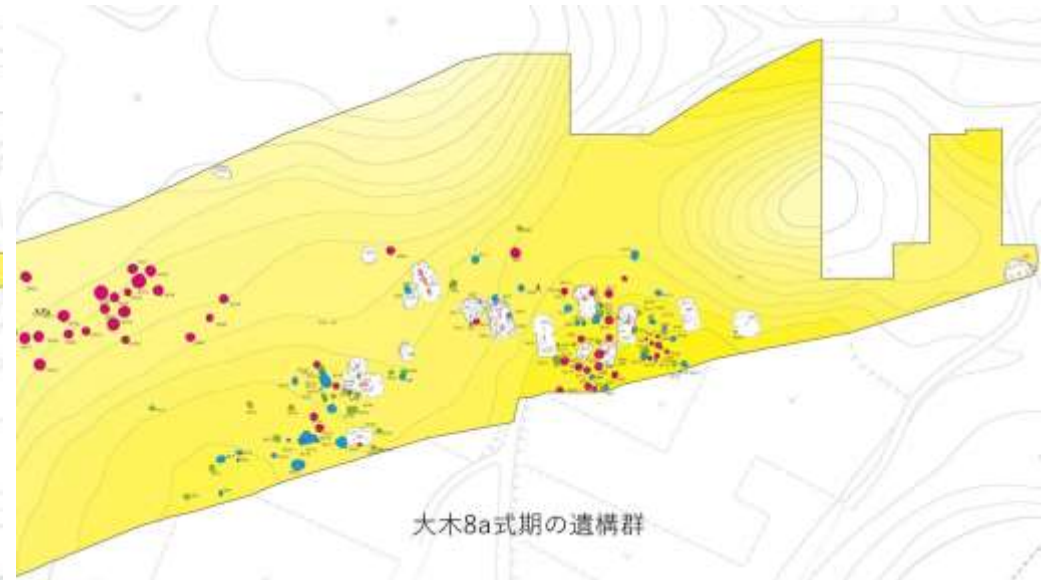
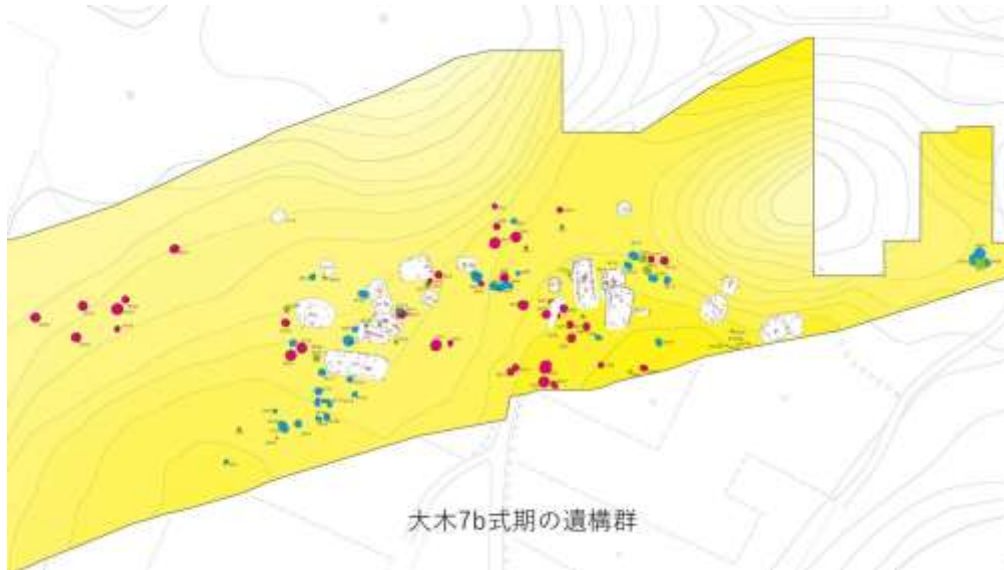


大木7a式期の遺構群

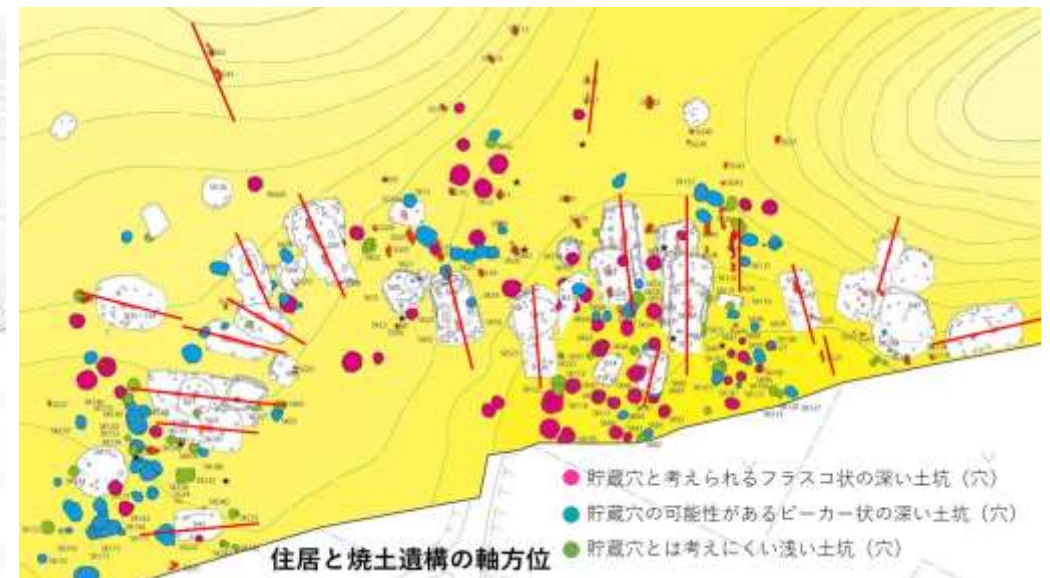
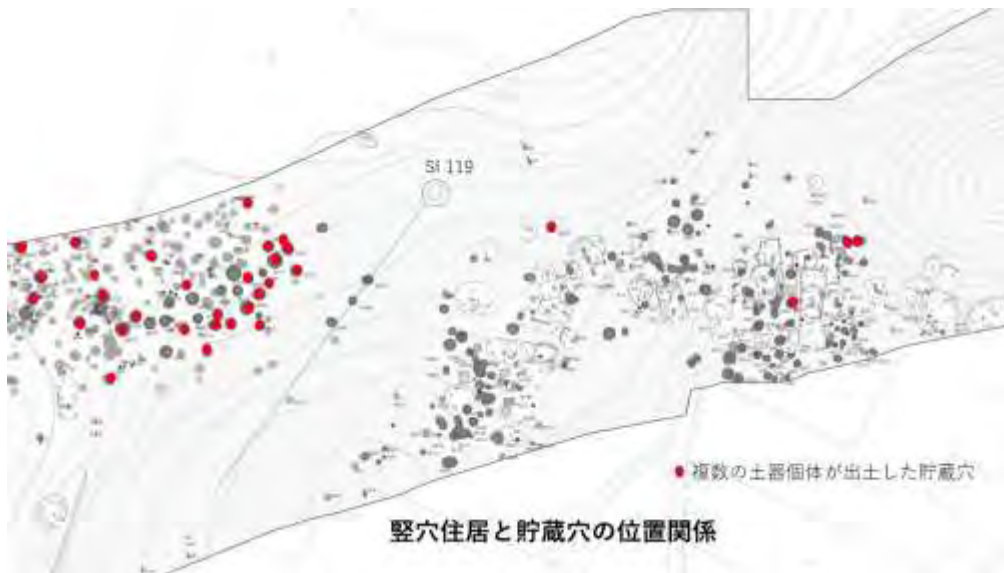
大木7b式期～8a式期の土坑群



大木7b式期～8a式期の竪穴住居跡群



3 集落を維持したルール



第3部 討 論

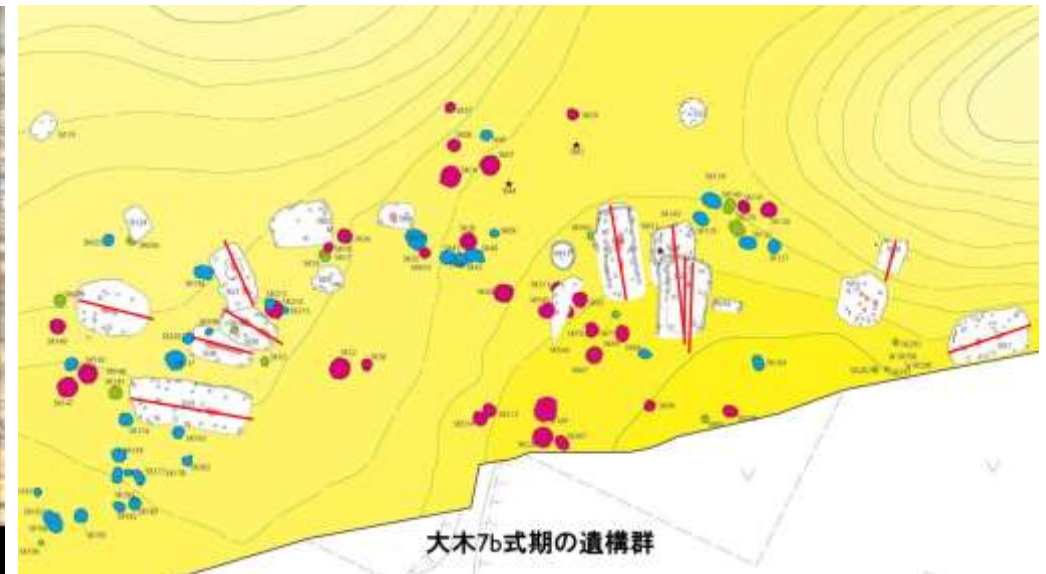
法正尻遺跡展関連文化財セミナー【法正尻遺跡の集落構成】 2021年2月27日 福島県文化財センター白河館

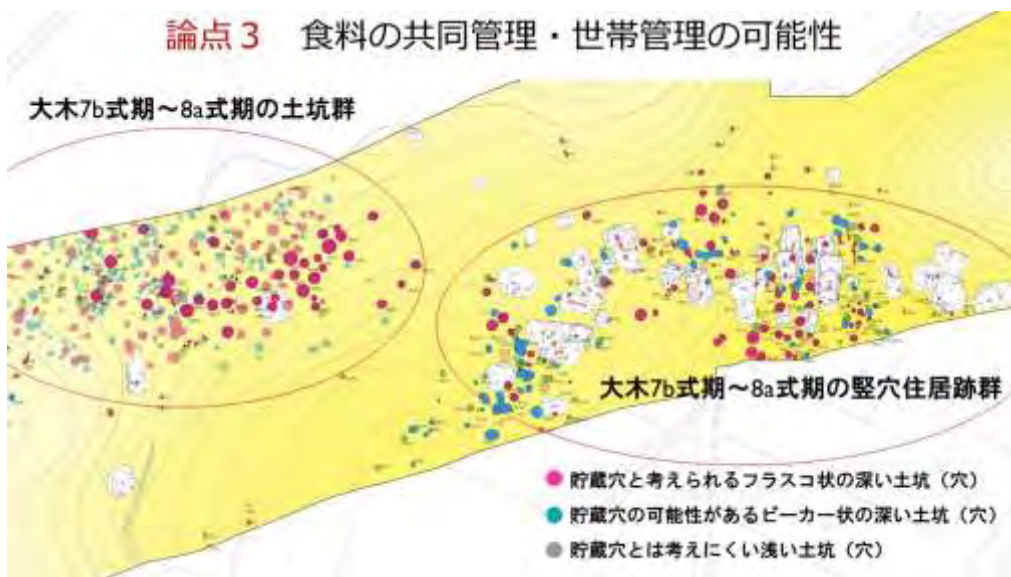
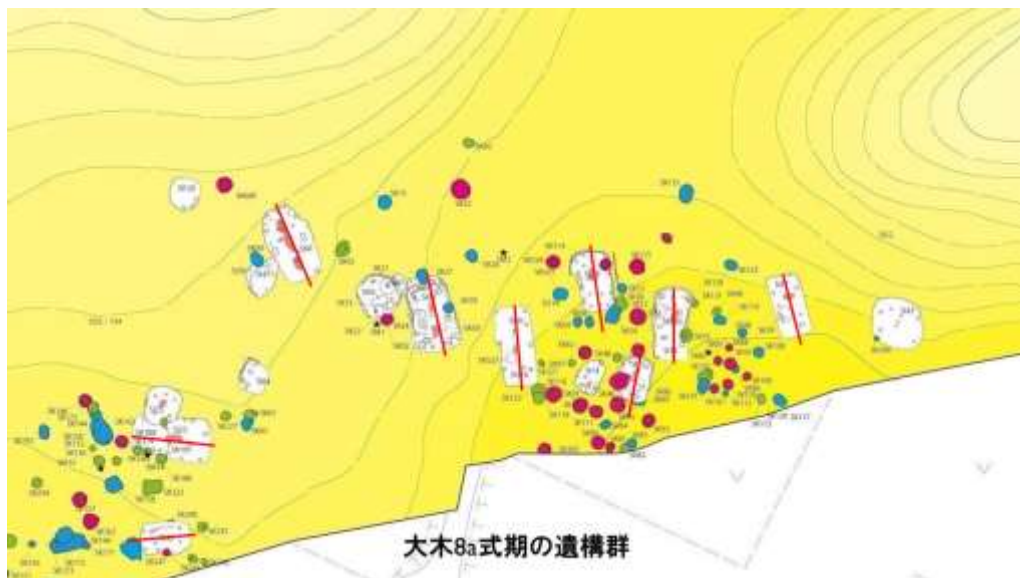
第3部 討 論

松本 茂・本間 宏

- 論点1 竪穴住居の占地と継続性
- 論点2 屋内炉と屋外炉の関係
- 論点3 食料の共同管理・世帯管理の可能性
- 論点4 墓坑の分布域とその特徴
- 論点5 集落構成の特質

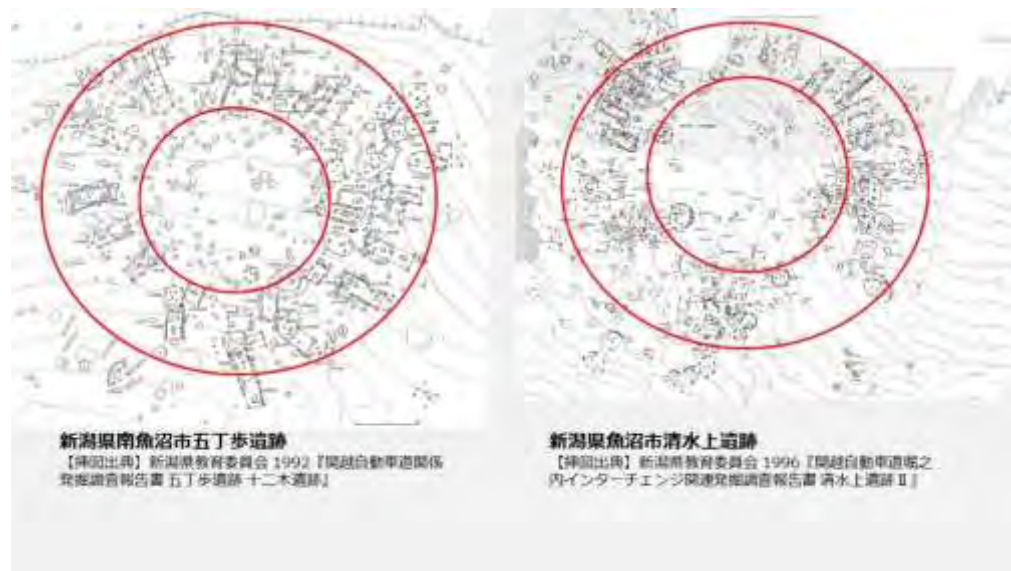
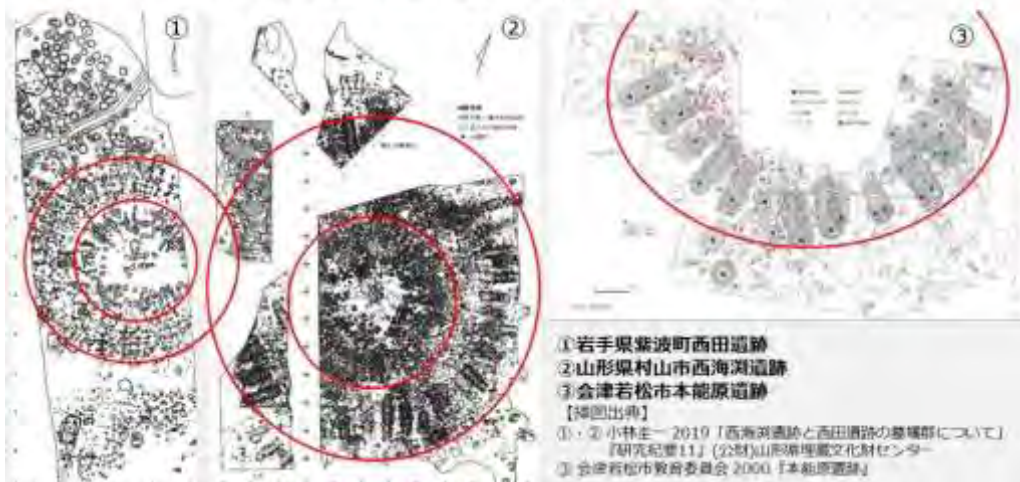
—西田・西海湖・本能原・法正尻・五丁歩・涌水上—そして柳島寺・堂後—





論点5 集落構成の特質

—西田・西海淵・本能原・法正尻・五丁歩・清水上、そして妙音寺・堂後—



貯蔵穴群エリアの独立・・・・・・・・共有保存食料管理区域か

貯蔵穴群エリアと墓域群の重複・・・・日常的起居空間との間に結界が存在する可能性
墓域群の被葬者は共有保存食料の管理権者か
郡山市妙音寺遺跡・堂後遺跡の貯蔵穴群も同様か